

## 医学研究支援部門の利用に関する成果・業績等一覧

### Lists of publication and results from Utilization in Medical Research Center

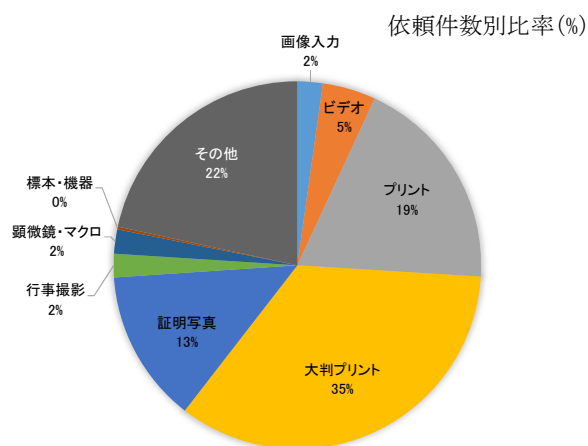
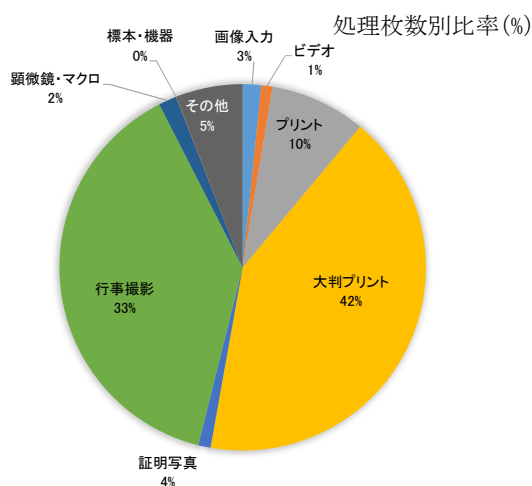
#### 形態系

##### 【中央写真室】

##### 平成30年度 年間処理枚数/依頼件数

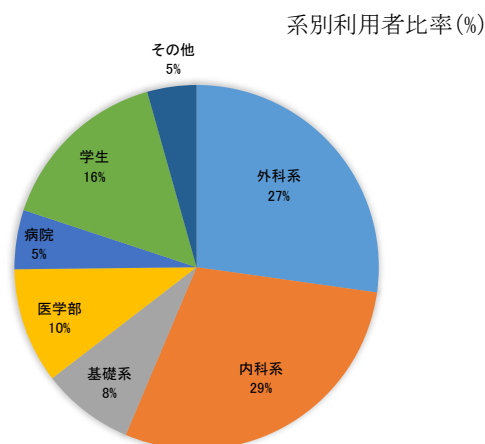
	画像入力	ビデオ	プリント	大判プリント	証明写真	行事撮影	顕微鏡・マクロ	標本・機器	その他	年間合計
処理枚数(枚)	350	210	1821	8978	234	8294	342	8	1270	21507
依頼件数(件)	26	62	313	422	204	36	31	3	446	1543

※1「ビデオ」は処理時間30分を1枚として換算 210枚=105時間  
※2「大判プリント」は料金単位 10cmを1枚として換算 8978枚=897.8m



##### 平成30年度 年間利用者数(人)

所属	外科系	内科系	基礎系	医学部	病院	学生	その他	合計
人数	242	259	73	91	47	138	39	889



【電子顕微鏡室】

論文

Itoi M, Okazawa A, Yamaura J, Maki S, Komatsu T, I. Maurin, E. Codjovi, K. Boukhedaden, Kojima N : Structural Insight into Order-Disorder Transition and Charge-Transfer Phase Transition in an Iron Mixed-Valence Complex (n-C<sub>3</sub>H<sub>7</sub>)<sub>4</sub>N[Fe<sup>II</sup>Fe<sup>III</sup>(dto)<sub>3</sub>] with a Two-Dimensional Honeycomb Network. *Inorg. Chem*; 57 (21) : 13728-13738, 2018.

Kosaku K, Harada H, Jike T, Tsuboi I, and Aizawa S: Long-Term Hypoxic TOLERANCE in Murine Cornea. *HIGH ALTITUDE MEDICINE & BIOLOGY*; Volume 19, Number 1: 35-41, 2018.

野田直紀：繊毛のはたらき 繊毛表面に沿った細胞の一方方向性運動. 日本大学医学部一般教育研究紀要；台46号：p.9-20, 2018.

学会発表

Hayashi K, Goto F, Kishino A, Nomura Y, Kanzaki S, Ogawa K : Crosstalk between Toll-like receptor 7-mediated autophagy and apoptosis in auditory cells – A miRNA let-7b-based therapeutic strategy for inner ear protection – . 6th East Asian Symposium on Otology. Seoul, Korea SP01 Basic Research 1, 2018.

浅居僚平, 原田英誉, 風間智彦, 松崎洋海, 大島猛史, 松本太郎：コラーゲンゲル充填シリコンチューブ架橋によるラット反回神経再生モデルの確立. 第17回日本再生医療学会総会. 横浜, 2018.

浅居僚平, 松崎洋海, 牧山 清, 大島猛史：反回神経切除ラットにおける再生可能な神経欠損距離の検討. 第30回日本喉頭科学会・学術講演会. 高知, 2018.

浅居僚平, 松崎洋海, 牧山 清, 大島猛史：咽頭・喉頭乳頭腫—2017年手術例の検討—. 第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 横浜, 2018.

Kishino A, Hayashi K, Hidai C, Nomura Y, Oshima T : The regulation of ER stress-induced autophagy

through XBP1-FoxO1 interaction in auditory cells. Association for Research in Otolaryngology 41st Annual MidWinter Meeting. San Diego USA, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 野村泰之, 大島猛史：内耳感覚細胞におけるJNK阻害剤による小胞体ストレス誘導性アポトーシスの抑制. 第119回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会. 横浜, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 野村泰之, 大島猛史：内耳感覚細胞におけるXBP1 mRNAスプライシングによる小胞体ストレス誘導性オートファジーの制御. 第28回日本耳科学会総会・学術講演会. 大阪, 2018.

Kishino A, Hayashi K, Oshima T: Endoplasmic Reticulum-induced Apoptosis and Necroptosis in Auditory Cells. The 122nd American Academy of Otolaryngology - Head and Neck Surgery Foundation Annual Meeting & OTO Experience. Atlanta USA, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 増田 毅, 野村泰之, 斎藤雄一郎, 大島猛史：内耳感覚細胞におけるBeclin-1を介した小胞体ストレス誘導性オートファジーとアポトーシス間のクロストーク. 第77回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 山口, 2018.

副島一孝, 樫村 勉, 風間智彦, 松本太郎, 菊池雄二, 仲沢弘明：シンポジウム 再生医療の現況と将来性 自家培養表皮移植 (CEA) による広範囲熱傷治療の現況と将来展望. 第61回日本形成外科学会総会学術集会. 博多, 2018.

副島一孝, 樫村 勉, 吉田光徳, 堀米迪生, 竹田昌平, 菊池雄二, 仲沢弘明：パネルディスカッション 培養表皮移植の進歩 人工真皮上への自家培養表皮生着率向上のための試み. 第44回日本熱傷学会総会学術集会. 東京, 2018.

Soejima K, Kashimura T, Kazama T, Matsumoto T, Nakazawa H : Effects of matured adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells on skin. reconstruction using artificial dermis in wound management Stem Cells 2018 Winter Symposium. Miami

FL USA, 2018.

副島一孝：皮膚再建の再生医療・現状と展望. 第39回日本炎症・再生医学会. 東京, 2018 イブニングセミナー 教育講演

#### 招待講演

岸野明洋：内耳感覚細胞における小胞体ストレスとオートファジー —電子顕微鏡による微細構造の観察—. 第151回電子顕微鏡技術研究会. 東京, 2018.

#### 招待講演関連発表

地家豊治：寒天を用いた浮遊細胞の試料作製法. 第151回電子顕微鏡技術研究会. 東京, 2018.

#### 著書

宮澤七郎・島田達生 監修 医学生物学電子顕微鏡技術学会 編 和泉伸一 編集責任：マイクロワールド人体大図鑑 脳と感覚器 考えて感じるしくみ. 株式会社小峰書店, 2018.

#### 受賞

Best Basic Science Award at the the 122nd American Academy of Otolaryngology - Head and Neck Surgery Foundation Annual Meeting & OTO Experience.

Kishino A, Hayashi K, Oshima T: Endoplasmic Reticulum-induced Apoptosis and Necroptosis in Auditory Cells.

### 医用電子系

#### 【医用電子室】

##### 総説・解説

##### 小児科学分野

藤田之彦, 石井和歌子, 福田あゆみ：発達障害とOD合併例に対する治療の取り組み. 子どもの心とからだ (0918-5526) 27巻2号 Page236. 2018, 8.

石井和嘉子, 藤田之彦, 高橋昌里：起立性調節障害患者における抑うつ・不安と腸内フローラに関する検討. 日本小児科学会雑誌 (0001-6543) 122巻2号 Page354. 2018, 2.

石井和嘉子, 藤田之彦：起立性調節障害 (OD) -病態理解と診断・治療はどこまで進んでいるか 起立性調節障害における脳血流変化. 子どもの心とからだ (0918-5526) 26巻4号 Page374-376. 2018, 2.

#### 神経外科学分野

山本隆充, 渡辺 充, 小林一太, 大島秀規, 深谷親, 吉野篤緒：脳卒中後疼痛研究の最前線 脳卒中後疼痛に対するニューロモデュレーション治療. PAIN RESEARCH (0915-8588) 33巻2号 Page89. 2018, 6.

### 生物化学系

#### 【化学分析室】

#### 【感染症ゲノム研究室】

#### 原著論文

##### 臨床検査医学部門

Sinya K, Nakayama T, Nakayama T, Yamamoto T: A Case-control Study between the STIM1 Gene and Hypertensive Disorders of Pregnancy. Hypertension Research; 41(1):39-44, 2018.

Ochiai Y, Sano E, Okamoto Y, Yoshimura S, Makita K, Yamamuro S, Ohta T, Ogino A, Tadakuma H, Ueda T, Nakayama T, Hara H, Yoshino A, Katayama Y: Efficacy of ribavirin against malignant glioma cell lines. Follow-up study. Oncol Rep; 39 (2) : 537-544, 2018.

Fujioka K, Oishi M, Fujioka A, Nakayama T: Increased nitroglycerin-mediated vasodilation in migraineurs without aura in the interictal period. Journal of Medical Ultrasonics; 45 (4) : 605-610, 2018.

Ohtake S, Takahashi H, Nakagawa M, Uchino Y, Miura K, Iriyama N, Nakayama T, Hatta Y, Takei M: One percent chlorhexidine-alcohol for preventing central venous catheter-related infection during intensive chemotherapy for patients with hematologic malignancies. J Infect Chemother; 24 (7) : 544-548, 2018.

Sunagawa K, Yagoshi M, Suzuki A, Seki T, Nakamura S, Miyazaki Y, Nakayama T, Hashimoto S, Sugitani M: Cytological and molecular detection of *Scedosporium apiospermum* in a patient treated for a *Mycobacterium avium* complex infection. *Diagn Cytopathol*; 46 (7) : 642-644, 2018.

#### 呼吸器内科学分野

Ito R, Maruoka S, Soda K, Katano I, Kawai K, Yagoto M, Hanazawa A, Takahashi T, Ogura T, Goto M, Takahashi R, Toyoshima S, Okayama Y, Izuhara K, Gon Y, Hashimoto S, Ito M, Nunomura S: A humanized mouse model to study asthmatic airway inflammation via the human IL-33/IL-13 axis. *JCI Insight*; 3 (21) : pii: 121580, 2018.

#### IR・医学教育センター

Matsuno T, Toyoshima S, Sasaki-Sakamoto T, Kashiwakura J-I, Matsuda A, Watanabe Y, Azuma H, Kawana K, Yamamoto T, Okayama Y: Characterization of human decidual mast cells and establishment of a culture system. *Allergol Int*; 67: S18-S24, 2018.

#### 生化学分野

Rocio Otero, Michiyasu Ishizawa, Nobutaka Numoto, Teikichi Ikura, Nobutoshi Ito, Hiroaki Tokiwa, Antonio Mouriño, Makoto Makishima, Sachiko Yamada: 5S-Adamantyl-23-yne-26, 27-dinor-1 $\alpha$ , 25-dihydroxyvitamin D3: Synthesis, Tissue Selective Biological Activities, and X-ray Crystal Structural Analysis of Its Vitamin D Receptor Complex. *Journal of Medicinal Chemistry*; 61 (15) : 6658-6673, 2018

#### 学会発表

##### 臨床検査医学部門

中山智祥, 鳴瀬 弘, 寺本紘子, 森田昭彦, 亀井聡, 福田嘉明, 宮下徹夫: Fabry病の遺伝学的検査実施例. 第91回日本内分泌学会総会学術大会, 宮崎, 2018.

福田嘉明, 菅野 希, 勝俣弘巳, 谷田部雄二, 宮下徹夫, 中山智祥, 南 紘子, 亀井 聡: マルベリー小体検出により Fabry 病と診断された一症例. 第

67回日本医学検査学会, 浜松, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 寺本紘子, 森田昭彦, 亀井聡, 福田嘉明, 宮下徹夫: Fabry病の自施設遺伝学的検査実施体制. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 寺本紘子, 森田昭彦, 亀井聡, 福田嘉明, 宮下徹夫: Fabry病の酵素活性測定, 塩基配列決定から遺伝カウンセリングまで. 第42回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 仙台, 2018.

鳴瀬 弘, 久川 聡, 笹村明香里, 赤澤 論, 堀江一郎, 中山智祥: 脳髄黄色腫症におけるCYP27A1遺伝子の新規変異. 第25回日本遺伝子診療学会大会, 伊勢市, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 南 紘子, 森田昭彦, 亀井聡: Fabry病の遺伝子診療実施例 — 臨床検査, 遺伝カウンセリング, 遺伝学的検査まで —. 第25回日本遺伝子診療学会大会, 伊勢市, 2018.

河野 愛, 中山智祥, 中山琢生, 新屋芳里, 山本樹生, 川名 敬: 妊娠高血圧症候群とMyosin Phosphatase Target Subunit 1 遺伝子との関連解析. 第25回日本遺伝子診療学会大会, 伊勢市, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 南 紘子, 森田昭彦, 亀井聡: Fabry病における確定診断のシステム構築. 第28回日本病態生理学会大会, 神奈川, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 南 紘子, 森田昭彦, 亀井聡: Fabry病の検出から遺伝学的検査による確定診断までの実施例. 第58回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.

鳴瀬 弘, 久川 聡, 笹村明香里, 赤澤 論, 堀江一郎, 中山智祥: 脳髄黄色腫症におけるCYP27A1遺伝子原因バリエーション検索. 日本人類遺伝学会大会第63回大会, 横浜, 2018.

市川 剛, 中山智祥, 仲尾岳大, 東 裕福, 川名

敬：妊娠中に遺伝カウンセリングを受けた母体骨形成不全症合併妊娠の一例. 日本人類遺伝学会大会第63回大会, 横浜, 2018.

石関 治, 相馬 史, 武居宣尚, 宮下徹夫, 中山智祥: 化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA) による抗ENA抗体測定の臨床的有用性. 日本臨床検査自動化学会第50回大会, 神戸, 2018.

相馬 史, 石関 治, 武居宣尚, 宮下徹夫, 中山智祥: 化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA) による抗ds-DNA抗体測定の臨床的有用性. 日本臨床検査自動化学会第50回大会, 神戸, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 福田嘉明, 宮下徹夫, 南 紘子, 森田昭彦, 亀井 聡: 臨床検査部での尿所見から塩基配列までFabry病確定診断システム構築. 日本臨床検査自動化学会第50回大会, 神戸, 2018.

Iriyama N, Naruse H, Takahashi H, Miura K, Uchino Y, Nakagawa M, Hamada T, Hatta Y, Nakayama T, Takei M: 均衡型転座t (2;5) (q37;q31) を有する慢性好酸球性白血病における新規融合遺伝子GCC2-PDGFRB. A novel fusion gene involving PDGFRB and GCC2 identified in a patient with chronic eosinophilic leukemia harboring reciprocal translocation, t (2;5) (q37;q31). 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.

中山智祥, 鳴瀬 弘, 南 紘子, 森田昭彦, 亀井 聡: Fabry病の遺伝学的検査体制確立. 第65回日本臨床検査医学会, 東京, 2018.

清原典子, 山川道子, 青木留美子, 西山宏幸, 武居宣尚, 永瀬昌史, 宮下徹夫, 中山智祥: 採血室の業務改善— 待ち時間の短縮と神経損傷事故の防止について —. 第14回 東京都医学検査学会, 東京, 2018.

五十嵐都志子, 寺岡正志, 江副 純, 久川 聡, 志方えりさ, 石毛美夏, 小川えりか, 中山智祥: ダイレクトシーケンシング法で検出されなかったフェニルケトン尿症の原因バリエーション検出. 第36回日

本染色体遺伝子検査学会総会・学術集会, 東京, 2018.

#### IR・医学教育センター

岡山吉道: 慢性特発性蕁麻疹 (CSU) に対する有用性から考えられるオマリズマブの作用機序, 第67回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018.

岡山吉道: 最新データから考える慢性特発性蕁麻疹の病因・病態とオマリズマブ. 第87回日本皮膚科学会東京支部学術学会, 東京, 2018.

Okayama Y, Fujisawa D, Endo T, Kashiwakura J, Kanegae K, Sakamoto T, Toyoshima S, Hayama K, Ra C, Terui T: Expression of Mas-related gene X2 on mast cells in skin of patients with severe chronic spontaneous urticaria. World Histamine Symposium 2018, 神戸, 2018.

豊島翔太, 坂本朋美, 鐘ヶ江佳寿子, 井上寿男, 権寧博, 羅 智靖, 松本健治, 岡山吉道: 自然免疫及び獲得免疫応答におけるヒトマスト細胞由来エクソソームmicroRNAの網羅的比較解析. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018.

遠藤嵩大, 豊島翔太, 葉山惟大, 西盛信幸, 伊崎聡志, 鐘ヶ江佳寿子, 坂本朋美, 照井 正, 岡山吉道: 慢性突発性蕁麻疹 (CSU) 患者の好塩基球におけるIgE依存性の反応性とオマリズマブの治療効果. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018. 6. 24.

遠藤嵩大, 豊島翔太, 葉山惟大, 西盛信幸, 伊崎聡志, 鐘ヶ江佳寿子, 坂本朋美, 照井 正, 岡山吉道: 慢性突発性蕁麻疹 (CSU) 患者の抗FcεRIα鎖自己抗体によるFcεRI架橋能とオマリズマブの治療効果. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018.

坂本朋美, 豊島翔太, 榎本幸典, 菅井和子, 高増哲也, 吉原重美, 岡山吉道: RSウイルスによるヒトマスト細胞の活性化機構の検討. アレルギー・好酸球研究会2018, 東京, 2018.



遠藤嵩大, 豊島翔太, 伊東真奈, 葉山惟大, 西盛信幸, 伊崎聡志, 鐘ヶ江佳寿子, 坂本朋美, 照井正, 岡山吉道: 慢性突発性蕁麻疹 (CSU) 患者の好塩基球におけるFcεRIを介する刺激に反応する (R) と反応しない (NR) 群のオマリズマブの治療効果. アレルギー・好酸球研究会2018, 東京, 2018.

菅井和子, 坂本朋美, 柏倉淳一, 宮地裕美子, 吉住正和, 木村博一, 吉原重美, 岡山吉道: RSウイルス感染による初回喘鳴児における鼻汁中抗RSV IgE値, TSLPと反復喘鳴の関係. アレルギー・好酸球研究会2018, 東京, 2018.

三嶋信太郎, 柏倉淳一, 豊島翔太, 菅順一郎, 関雅之, 斎藤 修, 徳橋泰明, 松本健治, 岡山吉道: 関節リウマチ (RA) 患者マスト細胞は変形性関節症 (OA) 患者マスト細胞に比較してFcγRを介して有意にprostaglandin D<sub>2</sub>を産生する. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」平成29年度報告会, 2018.

豊島翔太, 坂本朋美, 鐘ヶ江佳寿子, 井上寿男, 権寧博, 羅 智靖, 松本健治, 岡山吉道: 自然免疫および獲得免疫応答におけるヒトマスト細胞由来エクソソーム内microRNAの網羅的比較解析. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」平成29年度報告会, 2018.

伊崎聡志, 豊島翔太, 遠藤嵩大, 柏倉淳一, 布村 聡, 中村亮介, 秋山晴代, 鐘ヶ江佳寿子, 藤澤大輔, 畠田優子, 葉山惟大, 藤田英樹, 羅 智靖, 照井 正, 岡山吉道: 慢性蕁麻疹 (CSU) 患者の抗FcεRIα鎖 (α鎖) 自己抗体によるFcεRI架橋能とオマリズマブの治療効果. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」平成29年度報告会, 2018.

遠藤嵩大, 豊島翔太, 伊崎聡志, 西盛信幸, 葉山惟大, 坂本朋美, 鐘ヶ江佳寿子, 照井 正, 岡山吉道: 慢性特発性蕁麻疹 (CSU) 患者の好塩基球におけるFcεRIを介する反応性の差異とオマリズマブ対す

る治療効果について. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」平成29年度報告会, 2018.

## 耳鼻科学分野

浅居僚平, 原田英誉, 風間智彦, 松崎洋海, 大島猛史, 松本太郎: コラーゲンゲル充填シリコンチューブ架橋によるラット反回神経再生モデルの確立. 第17回日本再生医療学会総会, 神奈川, 2018.

浅居僚平, 松崎洋海, 牧山 清, 大島猛史: 反回神経切除ラットにおける再生可能な神経欠損距離の検討. 第30回日本喉頭科学会・学術講演会, 高知, 2018.

岸野明洋: 内耳感覚細胞における小胞体ストレスとオートファジー —電子顕微鏡による微細構造の観察—. 第151回電子顕微鏡技術研究会, 東京, 2018.

岸野明洋: 内リンパ水腫長期観察症例の聴力予後. 第15回東京メニエール病カンファレンス, 東京, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 野村泰之, 大島猛史: 内耳感覚細胞におけるJNK阻害剤による小胞体ストレス誘導性アポトーシスの抑制. 第119回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 横浜, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 野村泰之, 大島猛史: 内耳感覚細胞におけるXBP1mRNA スプライシングによる小胞体ストレス誘導性オートファジーの制御. 第28回日本耳科学会総会・学術講演会, 大阪, 2018.

岸野明洋, 林 賢, 増田 毅, 野村泰之, 齋藤雄一郎, 大島猛史: 内耳感覚細胞におけるBeclin-1を介した小胞体ストレス誘導性オートファジートアポトーシスのクロストーク. 第77回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 山口, 2018.

Akihiro Kishino, Ken Hayashi, Chiaki Hidai, Yasuyuki Nomura, Takeshi Oshima: The regulation of ER stress-induced autophagy through XBP1-FoxO1 interaction in auditory cells. Association for Research in

Otolaryngology 41st Annual MidWinter Meeting. USA, 2018.

Akihiro Kishino, Ken Hayashi, Takeshi Oshima : Endoplasmic Reticulum-induced Apoptosis and Necroptosis in Auditory Cells. The 122nd American Academy of Otolaryngology. Head and Neck Surgery Foundation Annual Meeting & OTO Experience, USA, 2018.

島 翔太, 坂本明美, 鐘ヶ江加寿子, 井上寿男, 権寧博, 羅 智靖, 松本健治, 岡山吉道: ミニシンボジウム; 自然免疫および獲得免疫応答におけるヒトマスト細胞由来エクソソーム内 microRNA の網羅的比較解析. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.

#### 呼吸器内科学分野

飯田由子, 丸岡秀一郎, 権 寧博, 水村賢司, 高橋麻衣, 引地麻梨, 清水哲男, 高橋典明, 橋本 修: スルフォラファンによる小細胞肺癌株に対する鉄代謝を介した新規細胞死フェロトーシス. 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.

丸岡秀一郎, 釋 文雄, 大橋由明, 山本博之, 大賀拓史, 比山英樹, 松田 喬, 由利正利, 村上正人: マルチオミクス解析を用いた心身症への新たなアプローチ. 第23回日本心療内科学会総会・学術大会, 北海道, 2018.

引地麻梨, 権 寧博, 丸岡秀一郎, 水村賢司, 高橋麻衣, 森澤朋子, 大木隆史, 坪井絵莉子, 橋本 修: 特発性肺線維症に特異的な新規血中自己抗体の同定. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」. 平成29年度報告会, 東京, 2018.

岡本真一, 丸岡秀一郎, 権 寧博, 津谷恒太, 水村賢司, 神津 悠, 坪井絵莉子, 曾田香織, 竹下郁子, 橋本修: ウイルス感染による気道上皮バリアの脆弱化機構の検討. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「難治性免疫・アレルギー疾患の病態の解明と新規治療法の開発」. 平成29年度報告会, 東京, 2018.

2. 24.

#### 生化学分野

石澤通康, Rocio Otero, 沼本修孝, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 常盤広明, Antonio Mourino, 榎島 誠, 山田幸子: 25-Adamantyl-1 $\alpha$ , 25-dihydroxyvitamin D3 誘導体の組織選択的活性. 日本ビタミン学会 第70回大会, 大阪, 2018.

石澤通康, Rocio Otero, 沼本修孝, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 常盤広明, Antonio Mourino, 榎島誠, 山田幸子. 25位アダマンチルビタミンD誘導体の構造と活性. 第4回 Neo Vitamin D Workshop 学術集会, 東京, 2018.

#### 糖尿病代謝内科学分野

田中 彩, 古川麻美, 小須田南, 山名 碧, 長澤瑛子, 藤城 緑, 山口 賢, 石原寿光: ブドウ糖応答性の異なるMIN6細胞サブクローンのトランスクリプトーム解析によるインスリン分泌に重要な遺伝子の探索. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.

山口 賢, 長澤瑛子, 山名 碧, 小須田南, 田中彩, 石原寿光: インスリン分泌におけるCITED4の機能解析. 第61回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.

#### 症例報告

##### 臨床検査医学部門

Sasamura A, Akazawa S, Haraguchi A, Horie I, Ando T, Abiru N, Takei H, Nittono H, Une M, Kurosawa T, Murai T, Naruse H, Nakayama T, Kotani K, Remaley AT, Kawakami A: Internal Medicine. Late-onset Cerebrotendinous Xanthomatosis with a Novel Mutation in the CYP27A1 Gene. Intern Med; 57: 1611-1616, 2018.

Fujioka K, Fujioka A, Tajima S, Oishi M, Hayashi K, Eto H, Nakayama T: Characteristic Power Doppler Sonographic Imaging of Nodular Fasciitis from a Dermatological Perspective: Another Case and Review of Three Cases. Journal of Clinical Case Re-

ports; 8: 1165, 2018.

総説

IR・医学教育センター

岡山吉道：ヒトマスト細胞とMAS-related gene X2 (MrgX2). 臨床免疫・アレルギー科；69 (3)：277-280, 2018.

岡山吉道：慢性特発性蕁麻疹におけるマスト細胞の活性化機構. アレルギー；67 (3)：192-196, 2018.

岡山吉道：慢性特発性蕁麻疹におけるマスト細胞と好塩基球の活性化の機序に関して. 臨床免疫・アレルギー科；69 (5)：463-467, 2018.

岡山吉道：マスト細胞. 鼻アレルギーフロンティア；18 (2)：76-79, 2018.

岡山吉道：IgE受容体「アレルギー用語解説」シリーズ. アレルギー；67 (9) 1279-1280, 2018.

ワークショップ, 特別講演, 招待講演, 受賞講演  
臨床検査医学部門

中山智祥：教育セッション「教えるための遺伝医学」バリエーションの記載法と評価・解釈. 第63回日本人類遺伝学会, 横浜, 2018.

中山智祥：遺伝子診療における基本的知識. 都民公開講座, 東京, 2018.

IR・医学教育センター

岡山吉道：PAFとアレルギー炎症, 第23回那須ティーチン学術集会, 東京, 2018.

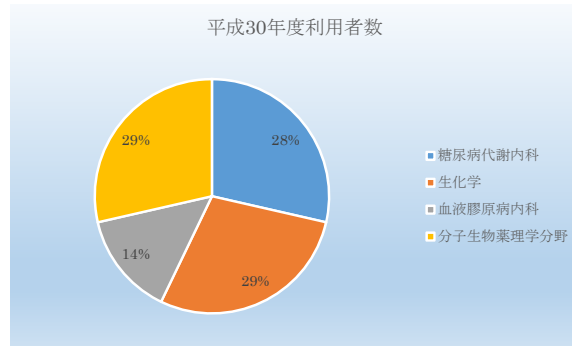
岡山吉道：ウイルス感染と反復喘鳴, 第36回呼吸器・免疫シンポジウム, 東京, 2018.

ラジオアイソトープ・環境保全系

【RI実験室】

平成30年度 RI実験室ガラスバッチ利用者数

分野	糖尿病代謝内科	生化学	血液膠原病内科	細胞分子薬理学分野
人数	2	2	1	2



保有核種数

保有核種	<sup>3</sup> H	<sup>35</sup> S	<sup>14</sup> C	<sup>32</sup> P
個数	2	1	1	1

論文

生化学分野

Rocio Otero, Michiyasu Ishizawa, Nobutaka Numoto, Teikichi Ikura, Nobutoshi Ito, Hiroaki Tokiwa, Antonio Mouriño, Makoto Makishima, Sachiko Yamada: 25S-Adamantyl-23-yne-26, 27-dinor-1 $\alpha$ , 25-dihydroxyvitamin D3: Synthesis, Tissue Selective Biological Activities, and X-ray Crystal Structural Analysis of Its Vitamin D Receptor Complex. Journal of Medicinal Chemistry. 61 (15) : 6658-6673, 2018.

細胞分子薬理学部門

Okubo, Y., Kanemaru, K., Suzuki, J., Kobayashi, K., Hirose, K. and Ino, M. Inositol 1,4,5-trisphosphate receptor type 2-independent Ca<sup>2+</sup> release from the endoplasmic reticulum in astrocytes. Glia 67: 113-124, 2019.



学会発表

生化学分野

石澤通康, Rocio Otero, 沼本修孝, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 常盤広明, Antonio Mourino, 榎島 誠, 山田子: 25-Adamantyl-1, 25-dihydroxyvitamin D3 誘導体の組織選択的活性. 日本ビタミン学会 第70回大会. 2018.

石澤通康, Rocio Otero, 沼本修孝, 伊倉貞吉, 伊藤暢聡, 常盤広明, Antonio Mourino, 榎島 誠, 山田幸子: 25位アダマンチルビタミンD誘導体の構造と活性. 第4回 Neo Vitamin D Workshop 学術集会. 2018.

細胞分子薬理学部門

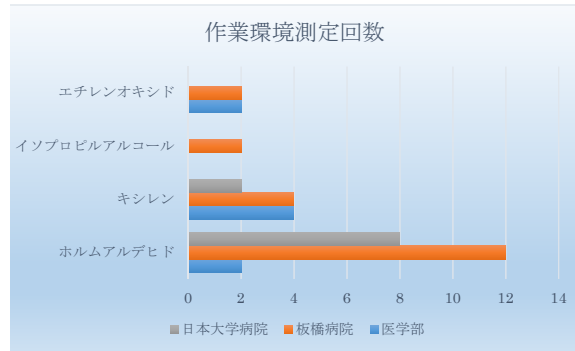
Kanemaru Kazunori, Isamu Taiko, Nami Kitajima, Hiroshi Sekiya, Masamitsu Iino: In vivo  $Ca^{2+}$  imaging analysis of  $\beta$ -cells using an ultrasensitive  $Ca^{2+}$  indicator YC-Nano50. 18th WORLD CONGRESS of basic and clinical Pharmacology 2018, 7.

金丸和典, 太向 勇, 飯野正光: 膵 $\beta$ 細胞カルシウムシグナルの生体内イメージング解析. 平成30年度生理研研究会「シグナル動態の可視化と操作に基づく多階層機能解析の新展開」2018, 9.

Kazunori Kanemaru, Isamu Taiko, Masamitsu Iino: In vivo  $Ca^{2+}$  imaging analysis of  $\beta$ -cells with transgenic mouse expressing genetically encoded  $Ca^{2+}$  indicators. 第92回日本薬理学会年会 2019, 3.

平成30年度 作業環境測定の実績  
測定物質としてイソプロピルアルコールを追加  
作業環境測定の種類・場所・測定回数

	医学部	板橋病院	日本大学病院	合計
ホルムアルデヒド	2	12	8	22
キシレン	4	4	2	10
イソプロピルアルコール	0	2	0	2
エチレンオキシド	2	2	0	4
合計	8	20	10	38



ラボラトリーアニマル系

[動物飼育室]

[動物実験室]

論文

腎臓高血圧内分泌内科学分野

Negishi E, Fukuda N, Otsuki T, Katakawa M, Komatsu K, Chen L, Tanaka S, Kobayashi H, Hatanaka Y, Ueno T, Endo M, Mashimo T, Nishiyama A, Abe M. Involvement of complement 3 in the salt-sensitive hypertension by activation of renal renin-angiotensin system in spontaneously hypertensive rats. Am J Physiol Renal Physiol. 2018 Sep 26. [Epub ahead of print]

生化学分野

Endo-Umeda K, Nakashima H, Umeda N, Seki S, Makishima M. Dysregulation of Kupffer Cells/ Macrophages and Natural Killer T Cells in Steatohepatitis in LXR  $\alpha$  Knockout Male Mice. Endocrinology, 159 (3) : 1419-1432. 2018.

総合医学研究所 医学研究支援部門

谷口由樹, 藤田順一, 原 弘之, 石井敬基: 日本大学における動物実験委員会の概要について Outline of the animal care and use committee at Nihon University. 日本大学医学部総合医学研究所紀要 Vol. 6, pp.41-47. 2017.

学会等発表

循環器内科分野

Takafumi Kurosawa, YuxinLi, Kazuhiro Hagikura, Mitsumasa Sudo, Hironori Haruta, Tadateru Takayama, Takafumi Hiro, Masashi Shiomi, HiroyukiHao, Taro Matsumoto, Atsushi Hirayama : Effects of Res-

veratrol on Atherosclerotic Lesions in Watanabe Heritable Hyperlipidemic Rabbit. 第67回米国心臓病学会. 2018, 3.

Daisuke Kitano, Yuxin Li, Tadateru Takayama, Mitsumasa Sudo, Rie Takahashi, Yoshiki Taniguchi, Takafumi Hiro, Masako Mitsumata, Atsushi Hirayama. Comparison on Stent Thrombus Formation and Endothelialization in 3 months between Rivaroxaban-Clopidogrel combination and Dual Anti-platelet Therapy in pig with Everolimus-eluting Stent. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪. 2018.

Yuxin Li, et al. Aging and Coronary Artery Atherosclerosis: Insight from Clinical Intravascular Imaging Observation and Large Animal Model. Asian Pacific Society of Cardiology Congress 2018, Taipei 2018 May 17-21 (招待講演).

Masaru Arai, Yasuo Okumura, Koichi Nagashima, Ichiro Watanabe, Kazuki Iso, Keiko Takahashi, Yuji Wakamatsu, Sayaka Kurokawa, Kimie Ohkubo, Toshiko Nakai. Influence of Obesity on The Progression of Electrical And Structural Remodeling In A Canine Atrial Fibrillation Model. Heart Rhythm Society 2018, Boston, USA, 2018 May.

Masaru Arai, Yasuo Okumura, Ichiro Watanabe, Koichi Nagashima, Kazuki Iso, Ryuta Watanabe, Yuji Wakamatsu, Sayaka Kurokawa, Kimie Ookubo, Toshiko Nakai, Hiroyuki Hao, Rie Takahashi, Yoshiki Taniguchi, Mizuki Nikaidou, Atsushi Hirayama Influence of Obesity on the Progression of Electrical and Structural Remodeling in a Canine Atrial Fibrillation Model 第65回日本不整脈心電学会学術集会, 東京 2018, 7.

#### 腎臓高血圧内分泌内科学分野

宇都宮慧：免疫異常に起因する進行性腎障害に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の開発, 日本再生医療学会総会. 2018, 3.

宇都宮慧：免疫異常に起因する進行性腎障害に対す

る脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の開発, 日本腎臓学会総会発表. 2018, 6.

#### 糖尿病代謝内科学分野

金丸和典, 太向 勇, 北島奈美, 関谷 敬, 飯野正光：高感度カルシウムインジケータタンパク質 YC-Nano50 を用いた膵β細胞の生体内イメージング解析. 第138回日本薬理学会関東部会, 2018, 3.

Kazunori Kanemaru, Isamu Taiko, Nami Kitajima, Hiroshi Sekiya, Masamitsu Iino: In vivo  $Ca^{2+}$  imaging analysis of  $\beta$ -cells using an ultrasensitive  $Ca^{2+}$  indicator YC-Nano50. 国際薬理学会 WCP2018, 2018, 7.

#### 整形外科科学分野

中山潤志, 小山公行, 風間智彦, 松本太郎, 徳橋泰明：ラット椎間板変性モデルに対する脱分化脂肪細胞 (DFAT) 移植方法による治療効果の検討. 第91回日本整形外科学会総会, 神戸. 2018.

中山潤志, 宮方啓行, 風間智彦, 加野浩一郎, 松本太郎, 徳橋泰明：脱分化脂肪細胞 (DFAT) 移植による椎間板変性症モデルに対する椎間板再生効果. 第47回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 神戸. 2018.

#### 形成外科学分野

Kashimura T, Soejima K, Kazama T, Kikuchi Y, Matsumoto T, Nakazawa H EFFECT OF MATURE ADIPOCYTE-DERIVED DEDIFFERENTIATED FAT (DFAT) CELLS ON ISCHEMIC TISSUE OF NORMAL AND DIABETIC RATS. 16th annual international conference IFATS, USA. 2018, 12.

#### 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

浅居僚平, 松崎洋海, 牧山 清, 大島猛史：反回神経切除ラットにおける再生可能な神経欠損距離の検討. 第30回日本喉頭科学会・学術講演会, 高知. 2018, 3.

浅居僚平, 原田英誉, 風間智彦, 松崎洋海, 大島猛史, 松本太郎：コラーゲンゲル充填シリコンチューブ架橋によるラット反回神経再生モデルの確立. 第17回日本再生医療学会総会, 神奈川, 2018, 3.

### 生体構造医学分野

Masaharu Kotani, Yasunori Sato, Akemichi Ueno, Rina Shibuya, Toshinori Ito, Masato Imada, Kouichi Itoh : Two non-cytotoxic type 2 ribosome-inactivating proteins (Sambucus Sieboldiana lectin and Sambucus Nigra lectin) lead neurosphere cells to caspase-independent apoptosis. Biomedical Research 2018; 29 (8) : 1570-1577.

### 総合医学研究所 医学研究支援部門

藤田順一, 谷口由樹, 高山世絵梨, 本田元巳, ベゼハマリナ, 松本 明, 荒島康友, 石井敬基 : 日本大学医学部における第三者検証と実験動物福祉. 日本実験動物技術者協会関東支部実験動物福祉部会講演会シンポジウム, 東京. 2018, 3.

藤田順一, 谷口由樹, 高山世絵梨, 本田元巳, 船橋英行, 室伏 孝, 岡田直大, 後藤秀都, 廣田成美, 高橋理恵, 松本 明, 石井敬基 : 免疫不全ブタ飼育室と飼育装置. 第6回実験用ブタ勉強会, 東京. 2018, 4.

### 博士課程

#### 外科系 循環器外科学専攻

河野道成 : ウサギ下肢虚血モデルに対する凍結解凍脱分化脂肪細胞自家移植の効果. 日本大学大学院医学研究科博士課程外科系循環器外科学専攻

#### 内科系 循環器内科学専攻

黒澤毅文 : 遺伝性高コレステロール血症ウサギ WHHL-MI の動脈硬化性プラーク伸展に対する DPP-4 阻害薬リナグリプチンの効果 —血管内エコー法を用いた経時的検討—. 日本大学大学院医学研究科博士課程内科系循環器内科学専攻